

# 福井県議会だより 第14号

|      |          |       |           |
|------|----------|-------|-----------|
| 1    | 9月定例会の概要 | 11～14 | 特別委員会     |
| 2～3  | 代表質問     | 15～17 | 閉会中の委員会活動 |
| 4～8  | 一般質問     | 18～19 | 高校生県議会    |
| 9～10 | 常任委員会    | 20    | 議案等議決結果   |



8月5日ふくい高校生県議会 (P18・19に掲載)

## 9月定例会の概要

9月定例会は、9月12日に開会し、10月11日までの30日間にわたって審議を行いました。

開会日には、仲倉議長の新任に伴う選挙が行われ、松井拓夫議員が第98代議長に選出されました。

また、知事から補正予算案を初め12件の議案が提出され、本会議終了後には、部局別の全員協議会を開催して、主な議案の説明を受けるとともに、内容確認などの質疑を行いました。

今定例会では、原子力行政、北陸新幹線、人口減少対策、六呂師高原スキー体験施設、市内循環鉄道構想を初め県政の重要課題全般について活発に議論を交わしました。

議論を重ねる中で、予算決算特別委員会において、一般会計補正予算案のうち、「ふるさと納税1兆円国民運動事業」「幕末明治福井150年博（仮称）開催事業」および「年編活用推進事業」の3事業について減額修正することに決定しました。

閉会日の本会議では、知事から修正された予算案について慎重審議を求める発言がありました。この発言を受けて提出された、一般会計補正予算案の予算決算特別委員会への再付託を求める動議が可決され、本会議を休憩して予算決算特別委員会を開きました。

休憩中の同委員会では、先の委員会で修正可決した3事業のうち、「年編活用推進事業」については附帯決議を付したうえで原案のとおり認めることに決定しました。

再開後の本会議では、監査委員の選任同意に係る議案等4議案が追加上程され、12月定例会までの継続審査とした決算認定に係る2議案を除く計14議案について、修正可決または可決・同意しました。あわせて、陳情2件についても採決を行い、今定例会に付議された案件の審議を終了しました。

## 議長就任あいさつ

第98代福井県議会議長 松井 拓夫

県民の皆様には、日ごろから県議会に対し、格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

このたび、9月定例会で推挙を賜り第98代議長に就任いたしました。

現在、本県には、北陸新幹線の早期開業をはじめ、原子力発電所の安全対策、福井しあわせ元気国体・大会に向けた開催準備など、多くの課題が山積しています。

私たち県議会議員が、常に県民のそばに立ち、耳を傾け、皆様の意見が県政に反映されるよう一層の努力をさせていただきますので、皆様のご指導、ご支援をよろしくお願い致します。



## ◆代表質問

県会自民党

斉藤 新緑 議員



### 知事の政治姿勢について

#### 問

新年度予算において、自信と確信の持てる福井創生についての新しい政策を打ち出していただきたい。そのためには、県庁の各部各課が縦割りではなく、横串で新しい政策を立案していくための仕組みが必要であると考えるが、所見を伺う。

また、福井創生の理念と立案した政策を予算編成方針に加え、福井ならではのプロジェクトを全庁体制で実行していくべきと考えるが、所見を伺う。

#### 答

仕事のフロンティアは、各部局の境目にあり、互いに協力して仕事を行っていく必要がある。さまざまな形でそうした機会を増やす組織運営に努めている。

来年度の予算編成においては、「住む人も来る人も人生の幸福を実感できるふるさと福井」の実現を目指し、人を重視しながら、物、金を地域に呼び込み、域内で回す政策、幸福日本一を将来世代にどう継承していくかなど、全体の問題意識を政策立案の段階から徹底することにより、新たなプロジェクトを積極的に生み出していきたい。

県会自民党

田中 宏典 議員



### 若者からの政策提案について

#### 問

8月に「ふくい高校生県議会」を開催した。模擬本会議では、本県が直面する重要課題に対して、鋭い質問や提案を我々にぶつけてくれた。

参加された高校生を見ると、福井の未来を担う、すばらしい若者がたくさん育っていると実感した。今後、若者の県政に対する関心をより高めるため、県内外の学生の意見を県の政策立案に活用する仕組みをつくり、若者の生の意見を積極的に反映した施策を多く盛り込むべきと考えるが、所見を伺う。

#### 答

若者の意見は、広聴等の仕組みを通して、各事業の検討、実行段階において広く聴いている。

また、若者の考えを具体化する仕組みを取り入れており、若者チャレンジ応援プロジェクトでは、グループによる優れた地域づくりの活動を応援している。今後もアンケート等も活用し、若者の声を十分聴くとともに、直接彼らが参加する場を増やすなどして、若者が活躍できる地域をつくっていく。

### もんじゅについて

#### 問

「政府はもんじゅを廃炉にする方向で最終調整に入った」との衝撃的な報道がなされた。県は、

「もんじゅ」をエネルギー研究開発拠点化計画の中核施設に位置づけていることを踏まえ、しっかり情報収集を行い、対応することが必要と考えるが、所見を伺う。

また、エネルギー基本計画の見直しについて、「もんじゅ」の位置づけが重要な課題になると考えられるが、県はどのように対応するのか所見を伺う。

#### 答

これまでエネルギー研究開発拠点化計画を進め、国の核燃料サイクルの確立にも大きな役割を果たしてきており、国に対し、「もんじゅ」を含む核燃料サイクル政策に真剣に取り組むよう強く求めている。

また、エネルギー基本計画の検討に当たって、国は長期的かつ国際的な観点からその役割を真剣に考える必要がある。さらに、本県には課題が地域的に集中しており、これらを全体として捉え、新たな計画に原子力政策のあるべき姿を明確にすることが重要である。

自民党県政会

笹岡 一彦 議員



大河ドラマ誘致について

問

知事が誘致に力を入れてきた由利公正を題材にしたNHK大河ドラマは、残念ながら選に漏れた。真のふるさと力を高め、一丸となって再挑戦するのであれば、きっちり総括をしなければならない。

今後也由利公正で行くのか、それとも、題材を再選定し、推進体制の結束を強化するなど、新しい戦略を練り直すのか、所見を伺う。

答

由利を中心としてさらに人物群や構成なども吟味し、市町と力を合わせて働きかけていきたい。今後、協議会において、これまでの活動等を踏まえ、体制や内容の充実につ

※ 質問および答弁は発言の一部であり、詳しくは福井県議会HPで御確認いただけます。

いて協議し、ドラマの実現を目指すとともに、まちづくり、ひとつづくり、観光にもつなげていきたい。

駅舎デザインコンセプト・新幹線駅周辺のまちづくりについて

問

新幹線県内延伸を見据え、駅が設置される市において駅舎のデザインづくりが本格化している。4駅の駅舎デザインコンセプトは、12月までに鉄道・運輸機構に提出され、機構から市にデザイン案が示されて、平成30年春頃には基本デザインが決まる見通しである。

答

県は2月に庁内組織を立ち上げ、機構との交渉窓口を一元化した。各駅さまざまな課題を抱えており、県がリーダーシップをとっていくべきである。各駅の課題や取組方針について伺う。

各駅には歴史・文化などの地域特性のほか、駅舎の高さ、在来線との関係、駅周辺景観との調和等、異なる課題があることから、県も積極的に関与し、市を応援してさまざまな調整をしなければならない。

パース作成に当たっては、地域の特色、統一感も考慮する必要がある。福井らしさを感じる駅舎となるよう、各市とともに機構に働きかけていく。

民進・みらい

糀谷 好晃 議員



幸福度日本一について

問

幸福度ランキングでは高い評価となっているが、移住者が増えているわけではなく、本県が誇るべき教育環境で育った人材が都会へ流出していくという大きな流れは変わっていない。

また、事業所新設率、外国人宿泊者数などは下位に低迷している。こうした足りない面や弱みを克服してこそ、名実ともに幸福度日本一を誇れるはずである。幸福度ランキング総合1位という評価と個別の指標の関係をどう分析・判断し、今後それを埋めていく施策をどのように展開していくのか伺う。

答

ZENブランドによる海外発信やインバウンドの促進など、足りない部分を補うことにより、幸福度の基盤を積み上げていく。

幸福度1位という自信をもって、県民に幸せを実感してもらえよう、さらに次のレベルの政策を追求していく。

原子力災害と防災訓練について

問

8月に京都府、滋賀県と関西広域連合を交えた広域避難訓練が実施された。

原子力災害による広域避難訓練の早急な実施や、県外避難の訓練などを再三提言してきた我が会派として、一歩前進といえる。

今回の訓練を受けて広域避難訓練の実効性をどのように考え、また課題をどのように抽出し、整理し、改善策を計画に反映させていくのか伺う。

答

ヘリコプター、船舶などの運用方法の改善やスクリーニング、除染の改善、充実が必要となることを確認している。

今後、大規模な広域訓練の実施や、個別訓練で訓練内容を深めていく。地域原子力防災協議会においてチェックを行い、次の計画に反映させ、防災避難力を高めていく。

# 一般質問



## 質問と答弁ごとの音声データの掲載について

福井県議会では、代表質問および一般質問について、従来のライブ中継や録画中継に加え、音声データを質問と答弁ごとに分割し、本会議終了後、当日中にホームページに掲載し、全ての質疑およびその答弁の内容をわかりやすく速やかに情報提供することとしておりますので、ぜひご利用ください。

○アクセス方法 福井県議会ホームページトップ画面から

- 「インターネット中継」の中の「県議会質問・答弁内容」をクリック
- 一覧表の議員名をクリック
- 「質問要旨・内容」または「答弁内容」の「音声データ」をクリック

### 食育、地産地消の推進

中井 玲子 議員  
(自民党県政会)



#### 問

食育の推進により、福井の子どもが健康で元気になり、また、地産地消の推進と相乗することで、県内の農業、漁業も活発になることから、アンテナショップなどとタイアップし、本県の食育活動を首都圏等に広く発信していくことが重要と考える。本県における食育の推進や地産地消に係る目標、達成状況について伺うとともに、今後の発展の可能性について伺う。

#### 答

第2次ふくいの食育・地産地消計画は、平成30年度には、学校給食地産食材使用率を50%、食育・地産地消等を進める店舗数を1500店舗と目標を設けており、野菜の県内生産が拡大し、給食に使用した結果、地場産使用率は44%まで上昇、食育等の店舗数も1512店舗と着実に成果が上がっている。

また、最近、スポーツのエネルギーとしてご飯が注目されているため、スポーツ食育を新たに展開していく。

#### その他の質問事項

○観光行政 等

### 信号機の安全対策

長田 光広 議員  
(県会自民党)



#### 問

警察庁が交通安全施設のインフラ寿命化計画の策定を求める中で、県内の信号機の制御機約1,900機のうち、約16%の約300機が19年の更新時期を超えている。信号機は交通安全の基本であり、老朽化したものの放置は危険であるので、定期的に更新すべきであるが、長寿化計画の策定状況およびその対策を伺う。

#### 答

交通の安全と円滑を図る上で、交通安全施設の中長期的な維持管理、更新は大変重要である。必要性の低い信号機の撤去とLED化、維持管理、更新等に係る全体コストの縮減に努めているが、今の更新ペースでは10年後に40%以上の制御機が更新基準を超えるため、信号機の更新等に係る9月補正予算も提出した。持続的な交通安全施設の整備のため、平成29年度以降の交通安全施設に係る長寿化計画を策定していく。

#### その他の質問事項

○農林水産行政、県立病院 等

### 年縞研究展示施設と周辺施設との連携

小堀 友廣 議員  
(県会自民党)



#### 問

年縞研究展示施設整備予定地周辺には、鳥浜貝塚、若狭三万五湖スマートインターチェンジ開業も予定されている。年縞研究展示施設の魅力向上と効果的な誘客には、これら周辺施設と連携し、里山里海湖文化の一大拠点として盛り上げていく必要があるが、今後どのように連携を進めていくのか、方針を伺う。

#### 答

年縞研究展示施設の整備にあわせて、エリア全体の魅力向上を図ることが必要である。このエリアにすぐれた景観を創出することで、周辺一帯の回遊性、連携を深め、各施設の利用を促進していきたい。さらに、スマートインターチェンジを活用した誘客の方策についても、今後検討していきたい。

#### その他の質問事項

○ふるさと教育、中高一貫教育 等

## 新幹線敦賀開業後の 在来線特急の存続

佐藤 正雄 議員  
(日本共産党福井県議会議員団)



### 問

北陸新幹線敦賀開業に伴う問題である、敦賀駅での乗りかえ利便性の確保のためには、

在来線特急の存続がぜひとも必要である。鯖江市も存続に向けて動き出し、国土交通省も在来線特急存続が選択肢であることを明言したこの機を逃さず、西川知事を先頭に福井県内を初め、関西などとも連携して国とJRに対し、要請を始めるべきではないかと考えるが、所見を伺う。

### 答

並行在来線特急の存続に関しては、国土交通省、またJR西日本は難しいとの立場である。現在、与党検討委員会において、敦賀駅における乗りかえ利便性を最大限に高めるよう検討が行われているが、県としては、まずは一日も早い北陸新幹線の敦賀開業と、小浜京都ルートの実現に全力を集中することが重要であると考えている。

## その他の質問事項

○原子力防災、貧困対策 等

## スポーツコミッション の設置

清水 智信 議員  
(県会自民党)



### 問

学生のスポーツ合宿の誘致は継続した利用が見込まれ、今後の有望な市場である。現在、

県内では合宿の助成制度があるが、手続きの代行や施設の案内、補助金の申請案内等を一元的に行い、さらに推進すべきである。行政と観光協会や競技団体、民間企業と連携した、福井県版「スポーツコミッション」を設置し、スポーツツーリズムや合宿誘致に積極的に取り組むべきと考えるが、所見を伺う。

### 答

県では、市町と連携したスポーツ合宿誘致を行っている。スポーツツーリズムについても、地域の豊かな自然を生かしたスポーツイベントを開催し、県内外からの誘客を図っている。今後さらなる合宿の誘致やスポーツツーリズムを促進するため、市町や観光団体、スポーツ団体、旅行業者等と連携した推進体制を検討していく。

## その他の質問事項

○U・Iターン推進、教育行政 等

## 介護離職ゼロへの 取り組み

西畑 知佐代 議員  
(民進・みらい)



### 問

高齢化が進み、今後、働き盛りの世代が親の介護を理由に離職せざるを得ない場合には、

介護による離職を抑制する介護版休業制度など、社員に対する企業の支援が必要になってくると考える。国は、介護離職ゼロを目標に掲げたが、企業での取り組みを促す施策はどのようにしているのか。現状と課題、今後の体制について、所見を伺う。

### 答

本県における介護を理由とする離職者数は、年間400人と全国で最も少ないが、将来は要介護者の増加に伴い、介護離職者の増加が想定される。国は、介護休業の分割取得を可能とするなどの制度の見直しや企業に対する介護離職防止支援助成金を拡充するとしている。県としても、国の対応を周知し、介護休業等の取得促進を働きかけ、できるだけ介護離職がないように努めていく。

## その他の質問事項

○食のブランド発信 等

## 福井市市街地の 交通問題

山本 正雄 議員  
(民進・みらい)



### 問

福井市内では、芦原街道、国道416号、フェニックス通りなどが慢性的な渋滞である。

4車線道路の平面交差、特に片側2車線道路における右折待ちが課題であり、1台のために通れなくなるため、例えば、5台分約10mの右折レーンを設置すればスムーズに流れる。現時点の全体的な渋滞の実態や特色とともに、交差点改良は渋滞解消とまちづくりにも有効と考えるが、見解と見通しを伺う。

### 答

県内の渋滞箇所は40カ所、福井市街地で22カ所、うち南北方向の幹線で17カ所であり、連続立体交差事業や新九頭竜橋が完成すれば同市街地の渋滞緩和につながると思われる。右折レーン設置等の交差点改良は有効であるが、市街地は地元合意や用地買収に時間と費用を要するため、交差点角地を利用した簡易的対策の検討、信号制御や公共交通利用促進等のソフト対策も組み入れていく。

## その他の質問事項

○若者流出対策 等

「もんじゅ」の  
果たすべき役割

力野 豊 議員  
(県会自民党)



問

「もんじゅ」について、廃炉、最終調整と報道がされた。立地自治体や議会に何の説明もなく、方向性が決められるのであれば、甚だ遺憾である。これらの報道等を受け、もう一度「もんじゅ」の果たすべき役割について、立地県の知事として考えを表明すべきであると考えているが、知事の所見を伺う。

答

「もんじゅ」に対する国の責任は極めて重く、県が長年地元としての役割を果たしてきたことや地域への影響を考え、国は核燃料サイクル政策に真剣に対処する義務がある。既に、高速増殖炉の今後の活用、開発を確固たる方針を持って結論を出すよう関係大臣に強く伝えている。しかし、これまで、検討の過程等について地元への説明は全くない。「もんじゅ」についての考え方が変わる場合には、まず文部科学大臣が、地元説明にきてもらう必要がある。

その他の質問事項

○電源三法交付金、農業政策等

主権者教育の課題

西本 恵一 議員  
(公明党)



問

7月の参議院選挙で新たに有権者となった18、19歳の本県の投票率については、一定程度評価してもよい数字だと思う。今回は、より重点的に主権者教育に取り組んだことと思うが、その目的は、ただ単に選挙のためだけではなく、政治に対する知識や判断力を高め、能動的で積極的な市民を育てることにある。今回の参議院議員選挙を終えて、学校現場での主権者教育の反省点や課題、今後の取り組みについて、所見を伺う。

答

課題としては、討論型の授業における教員の課題の設定力、また、授業の展開方法などについて、まだ十分ではないという点である。今後の取り組みとして、模擬選挙や討論型の授業の質を高めるため、先進的な指導事例を収集し、各学校に提供するなど、継続的な授業改善に努めていく。

その他の質問事項

○情報セキュリティ対策、働き方改革、学び直しの機会提供等

幕末偉人の売り込み  
の再考

宮本 俊 議員  
(県会自民党)



問

平成30年の由利公正を主人公とする大河ドラマ誘致は実現しなかった。由利公正は真面目で極めて優秀な人物であったが、国民に絶大な人気があるわけではない。この結果を踏まえて、平成30年の幕末明治150年に向けた事業についても見直すべきではないか。由利公正や幕末をキーワードにした福井の売り込みをいま一度考え直すべきではないか。

答

平成30年の幕末明治福井150年博(仮称)は、県民の郷土の偉人への誇りを高め、地域の活性化を図るものである。由利公正のドラマ誘致に関しては、多くの民間団体等がイベント等を行い、福井の先人や歴史に対する関心が高まっている。大河ドラマの誘致は簡単なことではないが、由利公正を中心に内容を充実させて、市町等と連携しながら続けていきたい。

その他の質問事項

○行財政改革、「ふくい農業ビジネスセンター」等

ふるさと納税制度の  
趣旨の変質

井ノ部 航太 議員  
(希望ふくい)



問

ふるさと納税制度は、人口減少と税収減少に悩む地方にとって、都市との格差是正を制度的に推進しようとする画期的な仕組みとして、その実現には賛成するが、制度の趣旨が一部の過度な返礼品競争によって、著しく変質している。地方と都市の格差是正という崇高な理念が、国民や自治体に思うように浸透していない事態について、提唱者である知事はどのように考えているのか。

答

ふるさとや地方を応援するふるさと納税の理念は、東日本大震災や熊本地震等において、被災地の復興支援という非常に素直な形の国民の考え方であらわれている。制度導入から10年が経過したが、いまだ制度の確立期にあり、制度の規模が拡大すれば、切磋琢磨を通して適切なルールが生まれ、その理念も広がっていくと考えている。

その他の質問事項

○市内循環鉄道の整備等

## 原子力防災・災害対策

辻 一憲 議員  
(民進・みらい)



### 問

原子力防災の広域避難訓練について、視察の結果、地元住民等の話からは、実際の渋滞や混雑、高齢者の初期対応、UPZ(30km圏)住民の自主避難、住民のPAZ(5km圏)とUPZの把握などに課題がある。住民による避難指示や方法についての理解や認識の促進のため、全住民を対象とした訓練実施が理想であるが、改善の策として、避難指示のエリア別、自治体別に、日をずらした実施方法も考えられるが、所見を伺う。

### 答

今回、広域避難計画に基づき、初めて県外避難先への避難と受け入れ、県外でのスクリーニング・除染、熊本地震を踏まえた屋内避難等を行っており、全国的に最も広域のかつ多数の参加による実践的な避難訓練を実行できた。より多くの住民の訓練参加が重要であり、大規模訓練と個別訓練等を組み合わせ、毎年継続し、多くの住民の参加を得ていく。

### その他の質問事項

○産業・観光行政、  
コウノトリの放鳥 等

## 高校入試における英検等の導入

野田 富久 議員  
(民進・みらい)



### 問

来年度から英検等を県立高校入試で導入し、加点評価する方針を決めたと聞く。今年、中学生の英検受験を促すため、受験料の補助を行ったが、受験が任意であり、福井市では検定日が中体連と重なり、辞退者がさらに増えた。来年度からの導入は時期尚早と考えるが、導入計画概要や導入時の活用方法を伺う。あわせて私立高校入試での動向を伺う。

### 答

昨年度策定した教育基本計画に基づき、来年度の高校入試から英検等を活用する方向で中高の校長会、市町の教育委員会と協議し、特に異論は出ていない。具体的には、英検の級に応じて外枠での加算を検討している。今年度から中高生の英検等の受験料を補助し、受験機会の確保のため、学校行事や大会等の日程を調整している。なお、県内私立高校では、現時点で外部検定試験の導入は行われていない。

### その他の質問事項

○原子力政策の諸課題 等

## 丸岡城の国宝化に向けた見通し

小寺 惣吉 議員  
(県会自民党)



### 問

地元坂井市では、丸岡町を中心に丸岡城の国宝化に向けた市民の会を発足させた。さらに、北陸新幹線金沢開業の効果もあり、昨年1年間の観光客数は絶好調である。観光客からは、「お城は小さいが歴史を感じる」などの声もあり、国宝化に向けた夢と期待で盛り上がっている。国宝化に向けて実施している、新しい知見を得るための調査について、その成果を伺うとともに、文化庁との協議の状況と国宝化の見通しについて伺う。

### 答

丸岡城の国宝化に向けた調査については、昨年度は、新資料の発見により新たな知見が得られたところである。これらの調査状況については、随時、文化庁に対し報告しているが、国宝指定に向けては地域が一体となった調査活動や調査成果の発信が重要であり、県としても国に対して全力で応援をしていきたいと思っている。

### その他の質問事項

○森林行政、農業行政 等

## 河川や道路の環境美化

細川 かをり 議員  
(無所属)



### 問

足羽川などの河川に草木が生い茂り、荒れてジャングル化している。今の維持管理では現状に到底追いつかない。2年後の国体に向けて河川の伐採等の維持管理費を、予算枠にとらわれず、劇的に絶対的にふやさずべきではないか。沿道や歩道についても、雑草で植え込みが荒れている。除草等の維持管理費を同様にふやし、植栽についても植物の種類、管理が適切が見直すことが必要である。

### 答

福井国体に向けて、重点的に河川や道路の維持管理を行う区間を定め、必要な予算を確保していく。河川については、木が大きくなる前の伐採や、上部の草刈を優先させる等、コスト削減を図りながら維持管理に努める。道路の植栽についても、地元と協議しながら維持管理のしやすい植種を選んでいく。沿道の雑草は除草するように指示している。

### その他の質問事項

○服部川改修工事、福井国体・大会における福祉的配慮 等

「ポストこしひかり」  
の名称の決定

山本 芳男 議員  
(県会自民党)



問

来年度に品種登録出願、平成30年にデビューを迎える「ポストこしひかり」は、明るい話題に期待が膨らんでいるものの、全国的な新品種のサバイバル競争が平成30年に集中している。本県農業の最大の商品であり、日本一の品種として、有識者などを入れ、来春と言わず一日も早く「ポストこしひかり」の名称を決めてはどうか、所見を伺う。

答

「ポストこしひかり」の名称公募においては、単なる募集ではなく、コシヒカリを生んだのは福井県であり、日本一の品種開発技術を有している本県がコシヒカリを超える新しい米をつくったことをあわせて全国に発信することにより、名称の公募自体がブランド化に向けてのスタートとなるようにしたいと考えている。

その他の質問事項

○高速交通体系、原子力行政、大河ドラマの誘致等

高速交通開通  
アクション・プログラム

西本 正俊 議員  
(青 藍 会)



問

北陸新幹線敦賀開業を平成34年度末に控え、その効果を嶺南全域に浸透させてほしいが、ソフト・ハード両面の整備に時間はなく、敦賀以西ルート決定後は新幹線沿線としてのまちづくりが重要である。嶺南6市町への誘客策、JR小浜駅ほか各駅施設の利便性向上、二次交通など、必要な整備について、県による市町の調整、財政支援も必要と考える。スケジュールも含めて、今後の具体的なアクション・プログラムを伺う。

答

敦賀が東西人流の結節点となり、嶺南は将来的に京阪神との交流拡大が期待されるため、地域交通強化として在来線と新幹線の乗り換え利便性の向上等についてJR等に要請し、地域づくりとして年縞研究展示施設の整備や、各市町のまちづくりや産業団地整備などを支援するほか、新プロジェクトにも関与し、早いものは3年以内の実現を目指す。

その他の質問事項

○水産学術産業拠点構想 等

傍聴のお知らせ

福井県議会では、2月、6月、9月、12月の4定例会の本会議（臨時会を含む）と委員会を傍聴することができま

す。  
**本会議の傍聴**は、当日の先着順となっております。電話での予約はできません。

議事堂2階の傍聴席入口前で傍聴券を受け取り、入場してください。

傍聴席には、車いす用のエレベーターを設置しているほか、代表質問日や一般質問日には手話通訳者を配置しています。

**委員会の傍聴**の受付は、各委員会開催日の3日前の正午までに傍聴申出書を提出してください。

ただし、傍聴希望者が定員を超えたときは抽選となります。

なお、申込者が定員に満たないときは委員会当日の申し込みを受け付けます。

委員会当日は、開会予定時刻の30分前から15分前までの間に、議事堂1階正面ホールで傍聴券を受け取り、入場してください。

お問い合わせ先

議事調査課傍聴担当  
電話 0776-20-0609

12月定例会 会期（案）

|           |                     |
|-----------|---------------------|
| 11月25日（金） | 開 会                 |
| 11月30日（水） | 代表質問                |
| 12月5日（月）  | 一般質問                |
| 12月6日（火）  | 一般質問                |
| 12月8日（木）  | 常任委員会<br>（総務教育、産業）  |
| 12月9日（金）  | 常任委員会<br>（厚生、土木警察）  |
| 12月12日（月） | 新幹線対策特別委員会          |
| 12月13日（火） | 原子力発電・防災対策<br>特別委員会 |
| 12月14日（水） | 人口減少対策特別委員会         |
| 12月16日（金） | 予算決算特別委員会           |
| 12月20日（火） | 閉 会                 |

※日程は10月27日現在の会期（案）であり、変更される場合もあります。

※最新の日程は県議会HPでご確認いただくか、議会事務局までお問い合わせください。

## 総務教育常任委員会

### ○総務部、国体推進局及び選挙管理委員会関係

福井しあわせ元気国体・大会の開催費用について論及があり、「県民は、趣向を凝らして華やかに、盛大に盛り上げてほしいと期待しているが、その財源は確保できているのか」との質問に対し、「先催県の例では、運営費として国体に約45億円、大会で十五、六億円となっているが、直近の例ではこれを上回っている。財源としては、スポーツ基金を活用しており、また、企業や個人から募金・協賛を募っている」との対応が示された。

このほか、「核燃料税にかかる総務省との協議状況」等について対応等が示された。

### ○総合政策部、会計局、監査委員及び人事委員会関係

北陸新幹線敦賀以西ルートについて論及があり、決定の時期についての質問に対し、「年内に決まるよう働きかけていきたい」との対応が示された。さらに、「京都・新大阪間については北回りのルートを主張していくのか」との質問に対し、「議論のメインは北回りであると認識している。県が望むルートが実現するよう努力する」との

見解と対応が示された。

このほか、「在来線特急の存続」について対応等が示された。

### ○教育委員会関係

県立高校再編について論及があり、今後の方針と検討状況についての質問に対し、「今年度から来年度には、二州および丹南地区の再編について検討会を設ける予定である」との対応が示された。さらに「今後も慎重に議論を進めてほしい」との要望が述べられたのに対し、「地元関係者の意見も聞きながら、地域の人材をいかに育てていくのかという観点も含めて検討する。期限ありきではなく、方針を考えていく」との対応が示された。

このほか、「中学・高校の部活動のあり方」等について対応等が示された。



国体カウントダウンボード設置

## 厚生常任委員会

### ○安全環境部関係

「もんじゅ」について、政府が地元説明なく廃炉を含む抜本的な見直しを示したことに対し、「国にその都度方向性を説明するよう求めてほしい」との要望があり、「国としっかり協議していく」との対応が示された。また、海外での共同研究について、「国策としてエネルギー自給や経済効果も考慮すべき」との質問に対し、国内への技術蓄積への課題などの見解が示された。次に、広域的な原子力防災訓練に関し、「避難先住民の理解等が不可欠であるが、関係自治体との検討は進んでいるか」との質問に対し、「国の地域



原子力防災訓練におけるスクリーニング

原子力防災協議会で課題を整理し、関係自治体とも検討している」との対応が示された。さらに、「地域のガソリンスタンドとの連携強化」等の質問があった。

このほか、「防犯カメラの整備推進」「熊本地震を踏まえた行政の防災体制」等の質問があり、対応等が示された。

### ○健康福祉部関係

まず、第57号議案に関し民生委員の人員や質の確保について質問があった。

次に、県立病院中期経営計画に関し、一般病棟の削減と地域医療構想の関係の質問に対し、「医療技術の高度化による在院日数の短縮化や、同構想における回復期病床への転換方針への対応である」との見解が示された。また、「陽子線がん治療の金沢大学附属病院への外来診察室の設置によるメリット」の質問があり、石川県や富山県の患者の交通費負担上のメリットが示された。

さらに、「福井市中心部から近郊の4つの大病院の役割分担による県民へのよい医療の提供」等の要望があった。さらに、保育人材確保について質問があり、「修学資金等の貸付や配置基準の要件緩和とともに、国に処遇改善を要望していく」との対応が示された。

このほか、「国民健康保険の新制度移行」「難病患者への相談、診療体制」等の質問があり、対応等が示された。

## 産業常任委員会

### ○産業労働部及び労働委員会関係

県民衛星プロジェクトについて、「このスケジュールで平成31年度の打ち上げに間に合うのか」との質問に対し、「今年度は東京大学での技術研修を受けて設計に入る。平成30年度までに衛星の組み立てを行い、打ち上げを目指す」との見解が示された。これに対し、委員からは「県民は成長産業の育成に結びつけてほしいと願っている。県民理解を強く意識して多くの情報を発信しながら進めてほしい」との要望が述べられた。

このほか「伝統産業に対する支援」等についての質問があり、対応等が示された。

### ○観光営業部関係

付託議案である「指定管理者の指定について」は、「六呂師高原スキー体験施設の事業内容が当初予算の計画から変更になっており、改めて全議員で全体計画を確認する必要がある」との意見があったため、後日開催された予算決算特別委員会での討議案に関する質疑も踏まえ、再度委員会を開催し、議案の採決を行い、原案のとおり可決した。なお、予算決算特別委員会での議論を踏まえて、「管理者に過度な負

担を強いることのないように考慮すること。また、全体計画を議会に示すこと」等の附帯決議を付すことに決定した。

このほか「大河ドラマの誘致活動」等について質問があり、対応等が示された。

### ○農林水産部関係

米の輸出拡大について、「販売ルートはどう考えているのか」との質問に対し、「香港、シンガポールを中心に、株式会社クボタを通じて販売するルートを考えている。同社は現地に法人を持つっており、そこから料理店等へ売り込むことで米の輸出をふやす」との見解が示された。

このほか「オーベルジュの整備」等の質問があり、対応等が示された。



六呂師高原

## 土木警察常任委員会

### ○土木部関係

敦賀港の整備について論及があり、

「鞠山南地区の第2期整備については、貨物の需要見込みなどの問題があるようだが、採択の見込みはどうか」との質問に対し、「国からは利用促進策、静穏度対策、貨物の再配置の課題が示されており、国とともに荷主や船社を訪問している。示された課題を解決し、事業採択されるよう、引き続き取り組んでいく」との見解と対応が示された。

また、福井北インター周辺の土地利用について論及があり、「福井北インター周辺の市街化区域への編入を検討しているとのことだが、どのような業種の企業を想定しているのか。製造業等の立地は認められないのか」との質問に対し、「交通ネットワークが結節する立地条件を考えれば、物流企業に準じる企業が望ましいが、市町の産業振興に寄与するような企業であれば、乱開発にならないよう注意し、幅広く検討したい」との見解が示された。

このほか「県民の安全・安心の確保に向けた道路整備」「渋滞対策」等の質問があり、対応等が示された。



敦賀港

### ○公安委員会関係

女性が相談しやすい体制の構築について論及があり、「女性が被害者となる犯罪は、被害者が相談しづらく、潜在化しやすいことから、相談しやすい窓口を明確化すべきではないか」との質問に対し、「女性からの相談に対応するため、女性警察官をレイディースパートナーとして各警察署等に配置している。また、犯罪捜査においても、女性被害者捜査官が第一線で対応することにしており、加えて、女性専用の相談電話も設置するなど、万全の対応を行っていく」との対応が示された。

このほか、「子供を犯罪から守る対策」「交通マナーの向上」「サイバー犯罪への対応体制」等の質問があり、対応等が示された。

## 予算決算特別委員会

第55号議案平成28年度福井県一般会計補正予算(第1号)について、委員からさまざまな論及があり、審査の結果、「ふるさと納税1兆円」国民運動事業、幕末明治福井150年博(仮称)開催準備事業について減額する修正案を可決し、修正部分を除く部分については、原案のとおり可決した。

なお、第55号議案のうち、「年縞」活用推進事業については、全体計画との整合性を考慮し、附帯決議を付すことに決定した。

### ○「ふるさと納税1兆円」

#### 国民運動事業

制度の普及や正しい運用を図ることとは、本来国が旗振り役になるべきであり、このような事業に、県民の税金を投入してまで実施するのは疑問があるとしたのに対し、「提唱県である本県が音頭をとって、地方をよくしようとする仲間の協力を得ながら、運動を進めることに意味があり、ふるさと納税を活用し地方創生を大きく進めたい」との見解が示された。

委員からは改めて「国で実施すべき事業と思われる」との意見が述べられた。

### ○幕末明治福井150年博(仮称)

#### 開催準備事業

事業の必要性や妥当性について、また、補正予算に計上することの必要性について、多くの委員の理解が得られておらず、幕末明治150年にこだわることなく、まずは当該事業と関連の深い、大河ドラマ誘致についての総括を早急に誘致推進協議会で行い、十分な議論を経た上で、必要であれば予算を議会に提案すべきとただしたのに対し、「大河ドラマには長期的に取り組む必要がある、この事業と関連はしても、性質は異なる。当初予算でも幕末明治期の先人の功績を発信するために講演会やパネル展の開催等を行っているが、これはその延長線上の事業であり、当時の魅力、先人たちの業績、教育を県内外に発信し、地域の活性化や誘客拡大、ひとつくり、まちづくりにつなげていきたい」との見解が示された。

これに対し、委員からは「当初予算の段階では、ここまでの範囲のことは示されていない。国体で来県される方を目当てに作った施設に、国体参加者の参観がほとんどなかったとの他県の例も聞く。補正予算に計上してまで、幕末明治150年に間に合わせる必要があるか疑問である」との意見が述べられた。

### ○「年縞」活用推進事業

年縞研究展示施設の開館を急ぐ理由をただしたのに対し、「観光はもちろんだが、まずは学術的なものをベースとして、地元の活性化につなげていく。世界に誇る年縞であるので、県外から多くの方が来られる国体をひとつのターゲットとして、年縞の素晴らしさを知ってもらうため、国体にあわせた開館としている」との見解が示された。

これに対し、委員からは、「「年縞」をPRするのであれば、既存の施設で対応可能である。嶺南の活性化と国体に間に合わせることで、どちらが優先なのか。嶺南一帯の観光拠点となる施設をつくるべきである」との意見が述べられたほか、「施設整備以前に、天然記念物の指定や国の補助金をとるべ

年縞研究展示施設(イメージ図)



きである」との指摘がなされた。

これらの論議を踏まえ、①周辺の県・町所有の施設とあわせた総合的な管理運営、②全体計画の早急な策定と観光資源化、③天然記念物指定の早期申請と国の補助金の積極的活用、3項目について、適切な措置を講ずることを求める附帯決議を付すことを決定した。

### ○六呂師高原スキー体験施設

委員からは、当初の計画から大きく内容が変更されていることを踏まえ、議会に対し、全体構想、県と大野市の負担、費用対効果を示すべきとの指摘がなされた。

また、六呂師高原のさらなる魅力向上のための官民一体となった推進策についてただしたのに対し、「県と地元両市、経済団体や事業者等による協議会を設け、施設の整備や既存施設のネットワーク化を図り、通年型の観光エリアを目指す。周遊拡大につなげていきたい」との対応と見解が示された。

### ○その他

「もんじゅ」の廃炉を含めた見直しの決定を受けての県の今後の対応、原子力災害時の消防団との連携、若者を重視した人口減少対策、過疎地域の交通便利性の向上、教職員の長時間労働の改善、「ポストこしひかり」のブランド化戦略など広範多岐にわたる論及があり、それぞれ理事者の見解と対応をただした。

※ 代表・一般質問で質問を行った以外の議員について記載しています。また、質問および答弁は発言の一部であり、詳しくは福井県議会HPで御確認いただけます。

## 北陸新幹線の 駅周辺整備

山本 文雄 議員  
(県会自民党)



### 問

福井駅前については、恐竜のモニュメントがすばらしいという声を聞く。北陸新幹線の駅舎等の整備に当たっては、このような駅においた時の感触が非常に大切である。今後、県が予算化して、各駅の整備をする際に、統一した考えを持って進めるのか、あるいは、それぞれの駅については各自治体に任せるのか、所見を伺う。

### 答

県内の新幹線の各駅は、歴史、文化等異なるところがあるが、福井らしさを感じられる駅舎、駅周辺の整備を進める必要がある。また、地域の特徴を活かし、観光に役立つ、自分の駅に帰ってきたと感じてもらえる駅や駅前でなければならぬ。県では、各市町がそれらを考慮した上で行動できるように、おおむね3億円を上限とする補助制度を今回新たに設けて提案している。この制度も含めて、開業に向けたまちづくりを進めたい。

#### その他の質問事項

○大河ドラマ誘致、人口減少対策 等

## 有効求人倍率と 人口流出

大森 哲男 議員  
(県会自民党)



### 問

本県の有効求人倍率は常に1.5以上、直近の数字を見ると1.8と高いにもかかわらず、県内企業への就業者数が増えないのは、県が課題や実態をしつかりと捉えていないために、施策がどれも対処療法になっっているからではないか。人口流出が続く理由をどのように分析しているのか伺う。

### 答

本県企業は、すぐれた技術を生かして、継続的に安定的な経営を続けているため、有効求人倍率は高くなっている。しかし、都市部と比較すると、大きな企業が少なく、また、知名度が低い傾向があるため、その実力と魅力が十分に理解されず、就職先として選ばれない面がある。世界トップシェアの製品や技術を持つ県内企業の魅力をしっかりと伝えるとともに、企業誘致など、多様な職場をふやすことに努めているところである。

#### その他の質問事項

○市内循環鉄道とまちづくり、  
「子育てフアイルふくいっ子」 等

## 国際原子力の 人材育成

田中 敏幸 議員  
(自民党県政会)



### 問

平成17年にエネルギー研究開発拠点化計画が策定され、海外の研修生の受け入れや、福井大学を中核とした連携を進めている。国際原子力においては、特にアジアの人材育成が重要である。この計画は、アジアの中で、人材育成の面で大きな役割を果たしていくことを目的としている。「もんじゅ」の動向に影響されることなく、今後どのように計画を進めていくのか、所見を伺う。

### 答

平成23年に若狭湾エネルギー研究センター内に県の国際原子力人材育成センターを設置し、研修等を実施している。この5年間で26カ国約800名の研修生等を受け入れており、そのうち約9割がアジアからである。今後も東南アジア等の国々に原子力発電の安全に関する知見を伝えるとともに、医療や農業における放射線利用等、研修分野の拡充を図っていく。

#### その他の質問事項

○新幹線開業後の特急存続 等

## 六呂師高原の活性化

山岸 猛夫 議員  
(自民党県政会)



### 問

六呂師高原には、周遊滞在型の観光としての資源となる、県や大野市の施設が豊富にある。六呂師高原の活性化をしつかりと図っていくために、これらの施設をどのように活用していくのか。民間事業者などの動きも含め、所見を伺う。

### 答

県において、今年度、奥越高原牧場では放牧期間拡大のための簡易放牧施設の整備、ミルク工房では搾りたての牛乳を利用したソフトクリームの提供、奥越高原青少年自然の家では周辺施設と連携した研修プログラムの開発等を進めている。大野市では、来春再開すべく、温浴施設うらら館のリニューアル工事に着手している。民間事業者では、旧六呂師ハイランドホテル内の小売店設置や旧妻平ヒュッテ付近でのグランピング等の整備計画が示されている。これらを活用し、六呂師高原の誘客拡大、活性化につなげていきたい。

#### その他の質問事項

○奥越高原青少年自然の家の改修 等

## 新幹線対策特別委員会

### ○北陸新幹線の建設促進

敦賀以西ルートについて、「小浜京都ルートが頭一つ抜けている印象だったが、滋賀県は米原ルートの費用対効果が高くなるという独自の試算結果を発表するなど、予断を許さない状況ではないか」との質問に対し、「米原ルートは乗り換えが必要であり、用地買収、建設、試運転の期間を考えると5年での整備は無理。貸付料にも触れられていない。これから勝負であり、国土交通省の調査結果が出たら、本県の主張が反映されているか見極め、与党PTメンバーの県選出国会議員にも働きかけながら、小浜京都ルートの実現を図っていく」との見解が示された。

また、新幹線用地取得について、「以前の委員会用地の8割以上を取得すれば土地収用が可能とのことであった。今までは交渉が難しいところを避けていたように思うが、状況はどうか」との質問に対し、「鉄道・運輸機構では既に土地収用に必要な事業認定の準備に入っている。現場では用地事務所の職員が用地取得を精一杯頑張っており、今のところそれほど多く収用になるとは認識していない」との見解が示された。



北陸新幹線「つるぎ」

このほか、「新幹線駅舎のデザインへの県の関与」等について質問があり、見解等が示された。

### ○並行在来線のあり方

敦賀開業後の特急存続について、「富山県でも在来線特急の存続を求めたのではないか。富山県での経緯はどうであったのか」との質問に対し、「平成24年に富山までの在来線特急の乗り入れを求める声が大きくなった。富山—金沢間は並行在来線区間であり、旅客列車が増えることにより貨物調整金が減り、並行在来線の収益に大きな影響を与えるため、「つるぎ」を頻繁に走らせることで決着した」との見解が示された。

このほか、「財政投融资の活用」等について質問があり、見解等が示された。

## 原子力発電・防災対策特別委員会

### ○「もんじゅ」

政府が「もんじゅ」について抜本的に見直し、取り扱いに関する方針を本年中に決定するとしたことについて、県はどう考えるかとたじたたのに対し、「廃炉も含め検討し、年内に方針を決めるという見解が出されたことは極めて遺憾である」との見解が示された。

これに対して、「国が決定する方針に、県の意向を盛り込んでもらうための努力が必要である。まず、県がどうしたいかを国に伝えることが必要ではないか」とたじたたのに対し、「国は核燃料サイクルを今後も維持すると言っており、県と敦賀市が果たしていく役割や「もんじゅ」をどう考えていくかを国に確認し、敦賀市と意見交換しながら、地元としての考え方を伝えていきたい」との見解が示された。

さらに委員より、「原子力規制委員会の「もんじゅ」についての勧告後に、県の意向を発信していくべきであった。県が国にものを言っただけであったことが混乱を招いている。現時点で、まだ国の方針を聞くというのは問題である」「しっかりと情報収集し、県として、できるだけ早期に対応してほしい」等の意見と要望が述べられた。

### ○高浜発電所の運転延長

8月に実施した原子力防災訓練について、「国の基準では、車はスクリーニング会場では一方通行としているが、訓練では、出入り口で車の動線が重なっていた。基準に合致しているのか」とたじたたのに対し、「会場の出入り口が狭く、一方通行とならなかった。これは課題であり、開口部を広げる、出る車を再度検査する等の運用も考えられる」との見解が示された。

さらに委員より、「第三者機関による検証等が必要である」「より現実味のある訓練を行うべき」等の要望がなされた。

このほか、「高浜発電所1・2号機」「避難のための道路整備」等について、質問や意見が述べられ、見解等が示された。



「もんじゅ」  
(提供：国立研究開発法人  
日本原子力研究開発機構)

人口減少対策  
特別委員会

○幸福度日本一の全国への発信

「幸福度ランキングで前回に続き総合1位となったが、基本指標が24位という状況で、本当に幸福度全国1位と発信できるのか」との質問に対し、「65の指標を総合して1位にランクされたことは自信を持つてよい。また、子育て世代の移住満足度も1位と評価されており、積極的に発信していく」との見解が示された。

## ○自然減対策

「3人つ子応援プロジェクト」の成果  
および同事業の今後についてどうよう



東京で開催した「ふくい移住・就職フェア」

に考えているか」との質問に対し、「平成27年度の出生数に占める第3子以上の割合は18・7%で、事業開始前の平成17年度より3・3ポイント上昇した。10年間で成果も出ており、今後も自信を持って進めていく」との見解が示された。

## ○社会減対策

「社会人のU・Iターンの状況はどうか」との質問に対し、「昨年度実績は460人で、前年度より約100人ふえた。今年度は8月末現在で約300人という状況であり、今年度の目標500人に向けて取り組む」との見解が示された。

○地域間格差

「東京と地方の格差より、地方の中での地域間格差の方が拡大している」と認識している。広域行政を司る県として、これからの対策はどうか」との質問に対し、「各市町独自の取組みを応援する新ふるさと創造推進事業などで支援している」との対応が示された。

このほか、「地方創生交付金の申請額に対する交付実績」「不妊治療に対する支援」「ライフデザイン設計書の活用方策」「ふるさとワークステイ事業の状況」等について質問や意見が述べられ、見解と対応が示された。

請願・陳情について

1 請願・陳情とは

請願・陳情は、県民の皆様の意見や要望を県政に反映させるための大切な制度です。

県政について意見や要望がある方は、  
どなたでも議会に請願や陳情を行うこ  
とができます。

受理した請願は審査し、内容を適当と認めるときは採択し、県政に反映されるように努めています。陳情は、議長が必要と認めるものは、請願に準じた手続きとなります。請願に準じた手続きとならない陳情についても、全議員へ内容を周知し、委員会の審査等の参考にします。

## 2 請願や陳情の方法

請願は、県議会ホームページ「ご案内」の中の「請願・陳情」のページに掲載してある様式を参考に作成、提出してください。請願には、1名以上の議員の紹介が必要であり、紹介議員の署名または記名押印を受けてください。

陳情は、請願と同じ様式ですが、紹介議員はいりません。

3 お問い合わせ先

福井県議会事務局議事調査課

電話 0776・20・0609

(意見書提出を求める場合)

## 〇〇に関する意見書(案)

- ・意見書の趣旨（簡明に）
- ・理由（簡明に）

記

- 1 (要望する事項)  
2       "  
3       "

以上、地方自治法第99条の規定により提出する。

(宛 名) 殿

※関係行政庁名を記入すること

福井県議会

(内容)

## 〇〇に関する請願

- ・ 請願の趣旨（簡明に）
- ・ 理由（簡明に）

信

- 1 (請願事項)  
2        "  
3        "

平成 年 月 日  
福井県議会議長 ○○ ○○ 様  
(提出者) 住所 \_\_\_\_\_

氏名 (印)

「様式例」

(表紙)

請 願 書

## 紹介議員

署名（または記名押印）

※提出者が複数のときは、どなたが代表者かわかるよう明記してください。

※紹介議員は1人以上

## 閉会中の委員会活動

### 常任委員会の視察活動

#### ○総務教育常任委員会

実施日 7月13日(水)～14日(木)

視察先 千葉県議会、千葉県立船橋高等学校、信州大学

#### 調査の概要

千葉県議会では、「教育の振興に関する大綱」および「教育振興基本計画」に基づく公立私立の連携の推進、また、生徒や教員の連携等、その具体的な取組みについて千葉県から説明を受けた後、SSHに関する事業や公立私立の定員管理について質疑応答を行った。

さらに、県立船橋高等学校では、SSH指定校、千葉サイエンススクールネットの中心校としての取組みについて説明を受けた後、それらの事業における公立私立の連携等について質疑応答を行い、校内施設の視察を行った。

信州大学では、大学の概要および大学の推進するグローバル教育について説明を受けた後、国際的に通用するグローバル人材の育成等について質疑応答を行った。その後、大学としての地域貢献およびキャリア教育について説明を受けた後、地域貢献度ランキング1位に選ばれる理由等について質疑を

行い、大学内の視察を行った。

委員会としては、視察結果を踏まえ、県立学校における教育力の向上に関する取組み、地方創生および人口減少対策にもつながる大学のあり方等に関する審査の充実に取り組んでいく。

千葉県立船橋高等学校



信州大学



### 「福井県議会だより」発行のお知らせメール配信について

福井県議会では、「福井県議会だより」の発行のお知らせメールの配信サービスを行っておりますので、ぜひご利用ください。

#### 1 申込方法

メールまたはファクスで「配信・停止希望申込書」を提出してください。

#### 2 「配信・停止希望申込書」の出力方法

福井県議会ホームページのトップ画面から

「ご案内」の中の「福井県議会だより」をクリック

『「福井県議会だより」発行のお知らせメール配信をご希望の方はこちら』をクリック

「配信・停止希望申込書」をクリック

#### 3 申込先

福井県議会事務局総務課

FAX 0776-20-0674

電子メール

gikaijim@pref.fukui.lg.jp

### 委員会の委員の変更について

9月定例会で、一部の委員会において、委員の変更がありました。

#### ○議会運営委員会

(※ 新たに選任された委員)

委員長 斉藤 新緑※

副委員長 仲倉 典克※

委員 野田 富久

山岸 猛夫

笹岡 一彦

田村 康夫※

糀谷 好晃

大森 哲男※

田中 宏典※

#### ○総務教育常任委員会

委員の選任 仲倉 典克

#### ○厚生常任委員会

委員の辞任 松井 拓夫

#### ○予算決算特別委員会

委員の辞任 松井 拓夫

委員の選任 仲倉 典克

## ○厚生常任委員会

実施日 8月9日（火）～10日（水）

視察先 静岡県立静岡がんセンター

静岡県立総合病院

静岡県地震防災センター

### 調査の概要

静岡県立静岡がんセンターでは、事業概要および陽子線がん治療利用の現状と他のがん治療法との連携について説明を受けた後、多職種、チーム医療の効果、がん治療法への考え方等について質疑応答を行った。その後、放射線、陽子線治療棟等の視察を行った。

静岡県立総合病院では、公立病院経営改革について説明を受けた後、経費削減の状況、人材確保、育成のあり方等について質疑応答を行った。その後、PETセンター等の視察を行った。

静岡県地震防災センターでは、地震防災対策における県民向けの施策について説明を受けた後、訓練参加や備蓄の推進、SNS活用の展開等について質疑応答を行った。その後、TSUNAMIシミュレーター等の視察を行った。

委員会としては、視察結果を踏まえ、陽子線がん治療の利用者確保、県立病院経営改革の実行、地震防災対策の県民向け情報提供や教育等に関する審査の充実に取り組んでいく。



実施日 8月3日（水）

視察先 福井県立病院

高速増殖原型炉「もんじゅ」

### 調査の概要

福井県立病院では、県立病院経営改革の実行段階における対応および陽子線がん治療センターの利用者確保対策について説明を受けた後、地域医療機関との連携、陽子線がん治療の効果とPR、他の大病院との役割分担等について質疑応答を行った。その後、陽子線がん治療センターの視察を行った。

高速増殖原型炉「もんじゅ」では、安全確保の取り組みおよび研究開発の見通しについて説明を受けた後、事故等の原因と改善状況、高経年劣化に対する認識、他事業者との人事交流の状況、組織改革における課題認識等につ

いて質疑応答を行った。その後、ナトリウム棟、原子炉格納容器、中央制御室等の視察を行った。

委員会としては、視察結果を踏まえ、県立病院経営改革の実行、陽子線がん治療の利用者確保、「もんじゅ」のあり方等に関する審査の充実に取り組んでいく。



実施日 9月8日（木）

視察先 足羽更生園

若越ひかりの村

### 調査の概要

足羽更生園では、障害者支援施設における安全確保の取り組み等について説明を受けた後、相模原市の事件に対する職員、利用者等の反応、同事件への対策状況、職員のメンタルヘルス

対策、施設整備の構想等について質疑応答を行った。その後、足羽学園、足羽更生園の視察を行った。

若越ひかりの村では、ふくい福祉事業団の同種施設の防犯対策の強化と課題について説明を受け、次に、若越ひかりの村の視察の後、同村の現況と防犯について説明を受けた。その後、防犯対策と地域交流の両立、新たな施設における防犯設備、障害者の入所待機状況、人材確保の現状と課題等について質疑応答を行った。

委員会としては、視察結果を踏まえ、障害者支援施設等における利用者等の安全確保対策について、地域移行や交流との両立のあり方を含めて、審査の充実に取り組んでいく。



## ○産業常任委員会

実施日 7月13日(水)～15日(金)

視察先 (株)ANA Cargo、沖縄

ヤマト運輸(株)、沖縄県工業技術センター、

(一財)沖縄観光コンベンションビューロー

### 調査の概要

(株)ANA Cargoでは那覇空港を拠点とした国際航空貨物ネットワークについて説明を受けた後、地方自治体との連携状況、取扱貨物量等について質疑応答を行い、貨物ターミナルの視察を行った。

沖縄ヤマト運輸(株)では、日本各地とアジア諸国を結ぶ国際クルマ宅急便について説明を受けた後、海外のマーケット状況、輸出ルート等について質疑応答を行い、サザンゲート施設の視察を行った。

沖縄県工業技術センターでは、地域産業の振興対策に関する説明を受け、研究棟の実験機器、実験棟の大型加工装置等の視察を行った。その後、沖縄県の製造業の特徴について質疑応答を行った。

(一財)沖縄観光コンベンションビューローでは、沖縄県の観光産業について説明を受けた後、組織の構成や役割、観光振興対策等について質疑応答を行った。

委員会としては、視察結果を踏まえ、県産品の販路拡大に向けた取り組みや、観光振興に関する施策の審査の充実に取り組んでいく。



株式会社ANA Cargo

## ○土木警察常任委員会

実施日 7月12日(火)～13日(水)

視察先 株式会社ラック

富士砂防事務所

### 調査の概要

株式会社ラックでは、サイバー空間で発生している事件や課題について説明を受けた後、公的機関における情報漏えいに対する対策の是非、サイバー攻撃から県民を守るために県警察が取り組むべき方向性について質疑応答を行った。また、JSOC(セキュリティ監視センター)において、契約企業の情報を守るために24時間体制で監視する様子を視察し、世界中からサイバー攻撃が仕掛けられている現状について、意見交換を行った。

中部地方整備局富士砂防事務所では、由比地すべり対策事業の整備状況につ

いて説明を受けた後、地すべり対策における効果的な手法、対策工事による事業効果、全国の地すべり地層の把握状況などについて質疑応答を行った。その後、実際に整備が進められている集水井や深礎杭の施工現場の現地視察を行った。

委員会としては、視察結果を踏まえ、サイバー犯罪対策、土砂災害防止対策に関する審査の充実に取り組んでいく。



株式会社ラック

## 特別委員会の視察活動

### ○原子力発電・防災対策特別委員会

実施日 8月30日(火)

視察先 日本原子力発電株式会社

敦賀総合研修センター、

原子力緊急事態支援センター

### 調査の概要

敦賀総合研修センターでは、センター

の概要説明を受けた後、フルスコープシミュレーター、保修訓練施設、安全体感エリア、教育シミュレーターの視察を行った。

原子力緊急事態支援センターについては、センターの概要、拠点施設の工事の進捗状況、福井県原子力防災訓練における原子力緊急事態支援センターの対応について説明を受けた後、ロボットコントロール車、ロボット操作訓練、大型ドローンの視察を行い、ロボットや大型ドローンの操作や可能な作業等についての質疑応答を行った。さらに、美浜町久々子のヘリポート、拠点施設建設現場に移動し、現地を視察し、質疑応答を行った。

委員会としては、視察結果を踏まえ、人材育成や緊急事態への対応等、県の原子力行政に関する審査の充実に取り組んでいく。



原子力緊急事態支援センター

8月5日に  
「ふくい高校生県議会」  
を開催しました

昨年度に引き続き、2回目となる「ふくい高校生県議会」を開催しました。

今年度は昨年度の6校を上回る9校から申し込みがあり、昨年度より6名多い33名の高校生が参加しました。

昨年度と同様、各高校を一つの会派とみなしてチームをつくり、自由なテーマで質問を考えていただきました。

また、今年度は新たに「今後、福井県を元気にしていくために、有権者になったら取り組んでいきたいこと」について全チームに考えてもらい、全ての意見を取りまとめて「福井県を元気にするための決議(案)」を作成し、本会議において採決しました。

| 参加高校    | チーム名                |
|---------|---------------------|
| ①鯖江高校   | 王 山                 |
| ②武生高校   | AOI                 |
| ③若狭高校   | アベンジャーズ             |
| ④藤島高校   | わびさび                |
| ⑤福井商業高校 | 上 田                 |
| ⑥羽水高校   | 羽ing 水ing Something |
| ⑦勝山高校   | 三色だんご               |
| ⑧武生東高校  | HINO                |
| ⑨仁愛女子高校 | はびらぶ                |

県議会議員は、議会運営委員会の進行役、及び本会議での答弁者役となり、本会議終了後には高校生との意見交換を行いました。

◆開催当日◆

《議会運営委員会》

各チームから委員を2名ずつ選出し、そのほかの高校生は委員外議員として参加して、議会運営委員会を開催しました。

当日の日程や本会議の運営について議事事務局職員から説明した後、くじ引きにより、質問の発言順序や議長役の順序を決定しました。

山岸議会運営委員会委員長からは、「一日限りですが、皆さんはふくい高校生県議会の議員です。ぜひ、議員役を楽しみ、県議会議員と自由に意見を交わしてください」との話がありました。



議会運営委員会での抽選の様子

《議事堂見学・リハーサル》

議事事務局職員から議事堂内の説明を行った後、本会議のリハーサルを行いました。

リハーサルでは、議長役や質問者の登壇の仕方、質問時の留意点、採決の手順などについて議事事務局職員が説明した後、高校生に実際に練習してもらった。



本会議リハーサルの様子

《本会議》

仲倉議長の開会のあいさつの後、議長役の高校生が開会を宣告し、本会議が開会されました。

各チームからは、人口減少対策や北陸新幹線、原子力行政など、県政の重要課題に関する鋭い質問が相次ぎました。

それに対し、答弁者役の議員からは、県の取り組み



や、議員個人の見解による答弁がなされました。  
 続いて、「福井県を元気にするための決議（案）」  
 を議題としました。高校生が決議案を朗読した後、  
 3名の高校生が賛成討論を行い、採決を諮りました。  
 その結果、決議案は賛成多数で可決されました。

最後に畑副議長から、「一県の重要課題に対する関  
 心の高さを感じました。また、決議案には福井県を  
 良くしたい強い思いが込められており、頼もしさを  
 感じました」などの総評がありました。

## 《意見交換会》

本会議終了後、2グループに分かれて高校生と議  
 員との意見交換を行いました。チームの代表者や県  
 議会議員が当日の感想を話したほか、高校生から県  
 議会議員に対し、選挙で投票する際の基準や地域間  
 の格差など、様々な質問や意見が出されました。



## ◎ 高校生からの感想の一部

- ・ 県議会がすごく身近に感じられ、18歳にな  
 ったら必ず選挙に行こうと思った。
- ・ 政治に興味がわいた。
- ・ 今回の参加をきっかけに、福井県について  
 もっと考えていきたいと思った

◎ ふくい高校生県議会の詳細な記録を  
 福井県議会ＨＰでご覧いただけます。  
 トップページの「県議会の活動状況」の  
 「ふくい高校生県議会」からご覧ください。

## 平成28年9月定例会 議案等議決結果

※ 議案等に対する各会派の賛否の状況は、福井県議会HPでご覧いただけます。

## ◆議 案

| 議案番号   | 件 名                                            | 議決結果 |
|--------|------------------------------------------------|------|
| 第55号議案 | 平成28年度福井県一般会計補正予算（第1号）                         | 修正可決 |
| 第56号議案 | 平成28年度福井県下水道事業特別会計補正予算（第1号）                    | 原案可決 |
| 第57号議案 | 福井県民生委員定数条例の一部改正について                           | 原案可決 |
| 第58号議案 | 福井県児童福祉施設の設備および運営の基準に関する条例の一部改正について            | 原案可決 |
| 第59号議案 | 福井県産業振興施設の設置および管理に関する条例等の一部改正について              | 原案可決 |
| 第60号議案 | ふくい農業ビジネスセンターの設置および管理に関する条例の制定について             | 原案可決 |
| 第61号議案 | 福井県立体育施設の設置および管理に関する条例および福井県立青年の家設置条例の一部改正について | 原案可決 |
| 第62号議案 | 福井県警察本部の部制に関する条例の一部改正について                      | 原案可決 |
| 第63号議案 | 指定管理者の指定について                                   | 原案可決 |
| 第64号議案 | 県有財産の取得について                                    | 原案可決 |
| 第65号議案 | 平成27年度福井県歳入歳出決算の認定について                         | 継続審査 |
| 第66号議案 | 平成27年度公営企業会計における剰余金の処分および決算の認定について             | 継続審査 |
| 第67号議案 | 福井県監査委員選任の同意について                               | 原案同意 |
| 第68号議案 | 福井県収用委員会委員および予備委員任命の同意について                     | 原案同意 |
| 第69号議案 | 福井県土地利用審査会委員任命の同意について                          | 原案同意 |
| 第70号議案 | 福井県公害審査会委員任命の同意について                            | 原案同意 |

## ◆意見書

| 議案番号   | 件 名                | 議決結果 |
|--------|--------------------|------|
| 発議第16号 | 核燃料サイクルの在り方に関する意見書 | 原案可決 |

## ◆請願・陳情

| 受理番号  | 件 名                                  | 議決結果 |
|-------|--------------------------------------|------|
| 陳情第1号 | ほっとサポートふくいに関する陳情                     | 不採択  |
| 陳情第7号 | 福井県議会議員の選挙における選挙公報の発行に関する条例の制定を求める陳情 | 不採択  |

発行日：平成28年11月24日 発 行：福井県議会広報会議

問い合わせ先 〒910-8580 福井市大手3丁目17-1

福井県議会事務局総務課

tel 0776-20-0605 fax 0776-20-0674

福井県議会 検索